

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-254628

(43)Date of publication of application : 11.10.1989

(51)Int.Cl.

A61K 35/78  
A61K 7/075  
A61K 7/08  
A61K 7/16  
A61K 7/46  
A61K 7/46  
A61K 7/50  
A61K 35/78  
A61K 35/78  
C11B 9/00  
C11B 9/02  
C11D 9/44

(21)Application number : 63-083715

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22)Date of filing : 05.04.1988

(72)Inventor : TANIDA MASAHIRO  
TSUCHIYA TORU  
UENOYAMA SHIGEHARU  
NAKAYAMA YASUHISA

### (54) AGENT FOR DEPRESSING CONSCIOUSNESS LEVEL

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the subject composition useful for relieving from a physiological and psychological state caused by excessive excitation of consciousness level, e.g., irritation, anxiety or tension and normalizing the psychologic action, by using a specific valerian oil fraction obtained by vacuum distillation as an active component.

CONSTITUTION: The objective agent contains, as an active component, a valerian oil fraction prepared by removing the fraction distilled out at  $\leq 80^{\circ}$  C under 0.08mmHg pressure by vacuum distillation. The fraction is free from malodor, has weak woody spicy aroma and is applicable without giving influence to the balance of the odor of the whole compound perfume. Preferably, the composition is added to a flavoring product in an amount of 0.1W5% and the active amount of the fraction is inhaled continuously or for a prescribed period by the aid of the fragrance emitted from said product.

### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-254628

⑮ Int. Cl.<sup>4</sup>

A 61 K 35/78  
7/075  
7/08  
7/16

識別記号

AAD

庁内整理番号

C-8413-4C  
8213-4C  
8213-4C  
6971-4C※

⑬ 公開 平成1年(1989)10月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 意識水準を鎮静させる組成物

⑯ 特 願 昭63-83715

⑰ 出 願 昭63(1988)4月5日

⑱ 発 明 者 谷 田 正 弘 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑱ 発 明 者 土 屋 徹 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑱ 発 明 者 上 野 山 重 治 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑱ 発 明 者 中 山 靖 久 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑲ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号  
最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

意識水準を鎮静させる組成物

2. 特許請求の範囲

減圧蒸留により、気圧0.08 mmHgの下で80℃以前に留出する部分を除いたバレリアン油分画部を有効成分として配合したことを特長とする、ヒトまたは動物の意識水準を鎮静させる組成物。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ヒトまたは動物の意識水準を鎮静させる、減圧蒸留により、気圧0.08 mmHgの下で、80℃以前に留出する部分を除いたバレリアン油分画部を吸入させることにより、ヒトまたは動物の意識水準を鎮静させる組成物に関するものである。

〔従来の技術〕

従来から、香料などの芳香物質を吸入させるこ

とにより心身のコントロールを行う、いわゆるアロマセラピー（芳香療法）という治療方法が知られている。このアロマセラピーの中で用いられてきた香料は古来からの伝承をもとにした天然精油が中心であり、本発明で問題としている「意識水準を鎮める効果」に関しては、ラベンダー、ベルガモット、マジョラム、ローズ、メース、ジンジャー、タイム、ナツメグ、クラリセージ、シナモン等の精油が効果が高いとされている（奥田治「アロマセラピー展望」香料；No.140（1983）pp.19-26）

またP. Roveestiらの研究グループは、ワイルドミント、マジョラム、ラベンダー、プチグレン、ローズ、カンファー、ネロリ、ベルガモット、セージ、シブレス、ミルテ、バレリアンウォームウッド、カモミル、ゼラニウム、ヤローホリーホック、オレンジフロクサム、ミント等の単品精油、あるいはアカシア、ファーン、ガーデニア、ネロリ、オボボナックス、ローズ、ライラック等を基本とした混合物をエアゾールを用いて

心理的不安症状や心理的緊張症状に悩む神経症患者に吸入投与したところ鎮静剤をあたえた時のような効果が得られたとしている。(S.P.C Aug 47 5-478 1973)

しかしながら、これらの効果は、主観的かつ定性的なもので、有効性の点で必ずしも満足し得ないものである。また上記の精油は、強い香りを持つものが多く、調香により調合香料を作成する場合に全体の香りに影響を与えてしまうことから、香りの強度及び嗜好性と効果発現の有効量とのバランスについても必ずしも満足しえないものであった。上記の *Rovesti* の効果精油の中で、バレリアン精油は、古来からヒステリーの鎮静薬として知られ、薬学事典の一部にも、香りによる鎮静効果の記載があり、最も有名な鎮静効果を持つ精油とされてきたが、ニオイ主成分が悪臭を持つ吉草酸とその誘導体であり、香料成分として用いる場合、特に嗜好性の点で劣っているものであった。

[ 発明が解決しようとする課題 ]

心理的状態から開放し、気分を穏やかにするとともに精神活動を平常化させる効果をさすものである。

また、組成物とは、“バレリアン活性分画部”が有効量吸入され、嗅覚受容体を刺激もしくは経気道的に体内に吸収されることにより効果が発現するものを指し、香水、コロソ、室内芳香剤、などのフレグランス製品の他、石鹸、歯磨などの化粧品、医薬品なども包括するものである。

以下本発明について詳しく説明する。

本発明における“バレリアン活性分画部”は、公知の物質であり、バレリアン油を気圧0.08 mmHgの下で蒸留分画し、80℃以前に留出する部分を除いたバレリアン油分画部で、バレリアン精油の高沸点成分の混合物である。

バレリアン油分画部については、標準商業品類の、*Valerian root oil* (山本香料) の分画部が本発明に用いられるが、日本産中国産、欧州産等全てのバレリアン油のどのような成分組成を持つものの分画部でも用いることが

本発明者は上記事情に鑑み、悪臭が無く、真に意識水準を鎮静させる効果に優れたバレリアン精油を得るべく鋭意研究を重ねた結果、0.08 mmHgの減圧下で行う蒸留により、80℃以前に流出する部分を除いたバレリアン分画部が、ウッド・スパイシな芳香を有し、悪臭成分が無いにもかかわらず、吸入により強力な意識水準を鎮静させる効果を有するという全く新規な事実を見出し、この知見にもとづいて本発明を完成するに至った。

[ 課題を解決するための手段 ]

すなわち本発明は、減圧蒸留により、気圧0.08 mmHgの下で蒸留分画し、80℃以前に留出する部分を除いたバレリアン油分画部(以下、“バレリアン活性分画部”と略す。)を有効成分として配合したことを特徴とするヒトまたは動物の意識水準を鎮静させる組成物である。

ここで言う意識水準を鎮静させる効果とは、ヒトまたは動物が日常生活で経験するイライラ、不安感、緊張などの意識水準の過度の高揚による生

出来る。

さらに天然のバレリアンから蒸留、抽出等の方法で得られた精油の分画部を本発明に用いることが出来る。

従って、バレリアン(*Valeriana officinalis* L. 及びその近種)の根茎から水蒸気蒸留、抽出など種々の手段により得られた香料混合物を減圧蒸留することによって、効果分画部を得ることも出来る。

“バレリアン活性分画部”は減圧蒸留以外にも常圧蒸留、カラムクロマトグラフィー、GC分取等の方法で得ることが出来るが、工業的な観点からは減圧蒸留が望ましいと考えられる。

これらの“バレリアン活性分画部”は、単独または“バレリアン活性分画部”と混合可能な様々な媒体(例えばエタノール、調香料、賦香製品)との混合組成物として用いられる。

媒体に調合香料を用いる場合は、調合香料全体の香りは個々の成分の香りが寄与することとなるが、前述の通り“バレリアン活性分画部”は悪臭

が無く、弱いウッディ・スパイシな芳香を有するから調合香料全体の芳香のバランスに悪影響を与えない。

この点から“バレリアン活性分画部”の使用量はかなり自由度が高く“バレリアン活性分画部”を重量比で1%以上調合香料に配合しても全体の香調のバランスをそこなうことなく意識鎮静効果を発現させることができる。

さらに意識鎮静効果を顕著に発現させるという観点から見た場合“バレリアン活性分画部”を重量比で5%から50%の範囲で調合香料中に配合することが出来る。

また、媒体として“バレリアン活性分画部”単独または上に記載した“バレリアン活性分画部”を含有する香料組成物をエチルアルコールと混合し、オーデコロンとして用いることも出来る。

また“バレリアン活性分画部”単独、または上に記載した“バレリアン活性分画部”を含有する香料組成物を用いて、担体としての賦香製品に賦香することもできる。そのような賦香製品として

は、フレグランス、室内芳香剤、クリーム、乳液化粧パウダー、ボディローション、デオドラントスティック、歯磨、頭髮製品、エアソール製品などがある。

さらに“バレリアン活性分画部”を有効成分とする吸入医薬品としても用いることが出来る。

#### [薬理効果]

#### 1. マウスに対する麻酔薬作用時間延長効果

##### (1) 実験方法

ICR系雄性マウス(6~7週齢、体重30~35g)に、下記の被験物質を含む空気流(1~2mgの被験物質を含む空気を毎分2l供給)を4時間吸入させた群と、物質を吸入させない群のベントバルビタール睡眠時間(55mg/kg服注)の差を比較した。

##### (2) 被験物質

物質A: Valerian root oil

(山本香料より入手)

物質B: “バレリアン活性分画部”

実験結果を表1に示す。

表1

被験物質	投与方法	被験物質投与群のコントロール群に対する平均睡眠時間変化率
物質A	吸入投与	+47%
物質B	吸入投与	+28%

(注)平均睡眠時間の符号が正のものは、被験物質吸入群の平均睡眠時間が延長したことを示、負のものは短縮したことを示す。

#### [投与方法、投与量]

本発明は吸入による投与を特徴とするものであり経口投与、皮下注射、筋肉注射などによる興奮剤とはとは異なり、健康人に対して与えた場合に興奮剤よりも緩和な意識鎮静効果を期待するものであるから上に述べた“バレリアン活性分画部”をアルコールあるいは香料などを含む組成物の一部として、または賦香製品に用いられた香料の組成物の一部として与えることが望ましい。

本発明の意識を鎮静させる吸入剤の効果は年齢個人差、性別、心身状態などに影響されるので、場合によっては下記範囲外量を投与する場合も生ずるが、一般に健康人を対象とする場合“バレリアン活性分画部”を0.1%から5%含む賦香製品から揮散する香気により“バレリアン活性分画部”を有効量一定時間あるいは継続的に吸入投与することが好ましい。

#### [実施例]

つぎに実施例および比較例をあげて、本発明を具体的に明らかにする。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

##### 実施例1 香水及びオーデコロン

標準商標品種の“活性物質”を重量濃度で、それぞれ5%、10%、15%、20%加えた柑橘系の香りをもつフレグランス用調合香料を95%の水性アルコールに重量濃度で3%になるように溶解し、オーデコロンを調製する。また同じ調合香料を95%水性アルコールに重量濃度で20%になるように溶解して香水とする。

これらのオーデコロンは香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例2 室内用エアスプレー

以下の処方によりエアゾールに充填した。

・バレリアン活性分画部を15%含む調香料  
(以下、効果調香料Aと略す。)

エチルアルコール95%	56
スパン 85	2
ツイン 81	1
プロペラント	36
	100

これらのエアゾールは香気吸入により、人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例3 石鹸

(1) 石鹸素地	95.0
(2) 効果調香料A	5.0
(3) 色素	適量

#### 製法

(2)及び(3)を石けん素地に添加後、機械練り、あるいは手練りして石けんを製造した。

これらの石鹸は使用時の香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例4 シャンプー

(1) アルキル硫酸トリエタノールアミン塩	15.0
(2) ヤシ脂肪酸モノエタノールアミド	5.0
(3) エチレングリコールモノステアレート	2.0
(4) 防腐剤	適量
(5) 色素	適量
(6) 効果調香料A	3.0
(7) 精製水	残余

#### 製法

(1)～(6)を(7)中に攪拌溶解しシャンプーを得た。

これらのシャンプーは使用時の香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例5 ヘアリンス

(1) 塩化アルキル トリメチルアンモニウム	3.0
(2) セチルアルコール	1.0
(3) 防腐剤	0.1
(4) グリセリン	5.0

(5) 効果調香料A	0.4
(6) 色素	適量
(7) POE(8モル)ステアリルエーテル	0.6
(8) 精製水	残余

#### 製法

(1)～(8)を80℃にて混合溶解し、室温まで放冷してヘアリンスを得た。

これらのヘアリンスは使用時の香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例6 バスパウダー

(1) タルク	80.0
(2) 効果香料組成物	20.0
(効果調香料A、流動パラフィン、1:20)	

#### 製法

(1)、(2)を混合攪拌してバスパウダーを得た。

これらのバスパウダーは、使用時の香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### 実施例7 練香水

(1) 効果香料組成物	90.0
(効果調香料A、ワセリン、5:4)	

(2) トリミリスチン酸グリセリン	8.0
(3) 香料	2.0

#### 製法

(1)～(3)を混合攪拌して練香水を得た。

これらの練香水は、使用時の香気吸入により人間の意識水準を鎮静させる効果を持つ。

#### [発明の効果]

本発明は、ヒトまたは動物が日常生活で経験するイライラ、不安感、緊張などの意識水準の過度の高揚による生理心理的状态から開放し、気分を穏やかにするとともに精神活動を平常化させるなどの意識水準を鎮静させる効果を有するものである。

特許出願人 株式会社 資 生 堂

第1頁の続き

⑤Int. Cl. 4

A 61 K 7/46

7/50  
35/78

C 11 B 9/00

9/02

C 11 D 9/44

識別記号

3 0 1

AAE

AAQ

庁内整理番号

Z-7306-4C

7306-4C

6971-4C

X-8413-4C

Z-7106-4H

7106-4H

7614-4H